

令和7年度予算編成に向けた「区提案反映制度」項目・対応状況一覧

提案区	番号	項目	提案内容の概要	所管局	○：対応 △：一部対応
瀬谷	1	市防災スピーカーと区防災スピーカーとの一体的運用	1 各区で運用している防災スピーカーに市防災スピーカーの機能を追加し、一体的な運用を要望 2 保守管理について局の予算で執行を要望	総務局	—
瀬谷	2	「GREEN×EXPO 2027」(2027年国際園芸博覧会)開催に向けた区局一体となった取組	1 博覧会開催に向けた区局横断したプロジェクトチームの設置及び推進 博覧会の来場促進に繋がる取組と開催を契機とした行動変容に繋げるための取組を推進する 2 区で実施する機運醸成の取組 各区において区の状況に合わせた取組を実施するための、各区事業への予算措置	脱炭素・GREEN×EXPO推進局	○
瀬谷	3	二ツ橋北部地区の街づくりの事業推進	1 二ツ橋北部三ツ境下草柳線沿道地区土地区画整理事業の第2期以降地区の継続的な地域への説明や情報提供及び早期事業化に向けた検討 2 172haのうち、長期事業未着手地区の取扱いの検討	都市整備局	○
瀬谷	4	慢性的な渋滞の緩和・解消に向けた区内道路整備の促進	1 横浜厚木線、環状3号線をはじめとした区内都市計画道路の早期事業化 2 旧上瀬谷通信施設跡地のまちづくりに対応する周辺道路の整備推進	道路局	△
				脱炭素・GREEN×EXPO推進局	○
瀬谷	5	GREEN×EXPO 2027開催時における、駅利用者・道路利用者の日常の移動の利便性確保	1 開催期間中の駅利用者や道路利用者の日常移動の利便性が確保される輸送計画の実現 2 上記についての、会場周辺の住民や事業者への早期の事前周知 3 周辺住民等の日常生活に支障を生じさせない開催準備	脱炭素・GREEN×EXPO推進局	○
瀬谷	6	「GREEN×EXPO 2027」開催に向けた、来場者へのおもてなし空間創出	1 GREEN×EXPO 2027開催後を見据えた、瀬谷駅北口駅前広場のおもてなし空間の整備 2 瀬谷駅から会場までの誰もが快適かつ安全に通行できる空間の整備	脱炭素・GREEN×EXPO推進局	○
瀬谷	7	「横浜市民生委員・児童委員 協力員・バトンタッチサポーター制度(仮称)」の創設	1 民生委員・児童委員が活動しやすい環境を整備し新たな担い手確保に繋げる目的で、民生委員・児童委員の活動を補佐する「協力員・バトンタッチサポーター(仮称)」を市内18区で設置可能とする要綱の策定 2 委嘱等に伴う諸経費及び実費弁償を目的とした活動費の支給	健康福祉局	○
瀬谷	8	寄り添い型生活支援事業におけるメニューの充実	1 生活体験事業 2 土曜日開所事業	こども青少年局	△
瀬谷	9	国際交流ラウンジ未設置区への支援充実による多文化共生推進	1 新規ボランティア育成支援の充実 2 コーディネーターの配置	国際局	△

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調書

所管局名	総務局
------	-----

瀬谷区		総務課	
担当者名	半戸、橋本	TEL	367-5611
共通区	4区（西区、保土ヶ谷区、都筑区、栄区）		

継続年数	新規
------	----

提案種別	予算関連
------	------

番号	項目
1	市防災スピーカーと区防災スピーカーとの一体的運用

◇地域の課題、基礎データ等

市防災スピーカーは市内190基設置されていますが、市内の人口カバー率は50%を下回る試算となっており、令和4年度に市が行ったアンケート結果でも全く聞こえなかったとの回答が67%となっています。

瀬谷区では平成26年に瀬谷北部連合、本郷連合、瀬谷第二連合の3連合自治会から、市長及び市会議長あてに「境川の川沿いへの防災無線の設置」に係る陳情がなされました。それを受け、平成28年に総務局危機管理室により区防災スピーカーが設置され、運用及び維持管理は、平成31年4月から瀬谷区で行っています。区防災スピーカーは、境川流域の居住者に向けて区が手動で避難情報（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保）のみ放送する運用としています。市防災スピーカーとシステムが違うので、Jアラートなど国からの緊急情報に対応していないという課題があります。

また、区防災スピーカーの安定した運用のために、3年に一度バッテリー交換や修繕が必要となりますが、人件費や電気代の高騰により区の自主企画事業費での負担が大きくなっています。そして、設置から年数がたつと経年とともに修繕等の頻度が高くなり、これまで以上に区の自主企画事業費での負担が大きくなる可能性があり運用維持が困難となります。

◇地域ニーズ等の収集手段

- 1 日常の窓口対応等
- 2 市民からの提案等
- 3 地区担当制
- 4 地域懇談会等
- 5 区民アンケート
- 6 区民要望
- 7 関係団体からの要望
- 8 その他（地域住民からの、訓練の場や地域の会合における繰り返しの要望）

◇区民からの具体的な要望

・毎年、市防災スピーカーの発報訓練を実施していますが、音が聞こえないと区民から御意見をいただきます。令和6年度瀬谷区防災対策連絡協議会においても、連合町内会長より市防災スピーカーの内容が聞こえず住民の安全を守るためにも聞こえるようにしてほしいとの要望がありました。

・境川流域には市設置の防災スピーカーはなく、Jアラートなど国からの緊急情報が聞こえません。一方で、区防災スピーカーが設置されているので、そこからJアラートなど国からの緊急情報を流してほしいと要望を受けています。

◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。

【総務局】 H28：基本設計 H29：実施設計 H30：工事着手  
 【瀬谷区】 H31.4：運用・維持管理開始

◇提案内容・概算額等

【提案内容】  
 既存の市防災スピーカーの設置状況では、Jアラート等の国からの緊急情報が聞こえない地域が多くあります。一方で、区独自の防災スピーカーからの発報のみが聞こえる地域があります。既存の区防災スピーカーを市防災スピーカーとしてシステムを改修し、維持管理予算も含め運用することで、Jアラート等の国からの緊急情報が聞こえる地域を拡大することを提案します。

《概算額》  
 システム改修費用 概算 ■■■■■ 千円

《参考》  
 令和6年度 区防災スピーカー維持管理、バッテリー交換費 ■■■■■ 千円見込

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課	総務局緊急対策課
------	----------

## ◆局回答内容

総務局		緊急対策課	
担当者名	山本・山口	TEL	671-2143

対応の有無	対応しない
対応する場合	◇対応の内容
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方 市防災スピーカーは、沿岸部と人口が多いエリアを中心に整備しており、現在、増設の予定はなく、区防災スピーカーを市防災スピーカーとして運用する予定はありません。Jアラート機能追加対応を含め、引き続き、その運用・維持管理をお願いします。また、市防災スピーカーの音が聞こえづらい課題につきましては、現在、音質改善に向けてシステム更新を検討しています。
	◇対応する場合の課題
	・市防災スピーカーとして運用する場合は、全市的視点から、沿岸部やより人口が多いエリアなどに配置場所を見直す可能性があります。

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調書

所管局名	脱炭素・GREEN×EXPO推進局
------	-------------------

瀬谷区		区政推進課	
担当者名	高田、加賀谷	TEL	367-5631
共通区	全区		

継続年数	新規
------	----

提案種別	予算・制度関連
------	---------

番号	項目
2	「GREEN×EXPO 2027」(2027年国際園芸博覧会)開催に向けた区局一体となった取組

#### ◇地域の課題、基礎データ等

「GREEN×EXPO 2027」(2027年国際園芸博覧会)(以下「博覧会」)は、開催まで3年をきり、各種イベントでの広報活動や区の連携した取組などにより、市民の認知度は上がってきています。そのため、認知だけに留まらず、今後、明らかになっていくコンテンツ等を計画的に周知することにより、来場促進に繋げる必要があります。

また、瀬谷区の小学校などから、機運醸成に繋がる取組を実施したいが、内容や開催理念が分からないので知りたいという意見も出ています。そのため、地域団体等が主体となって自主的に機運醸成に取り組めるように、また、博覧会の開催理念やテーマに共感してもらい、開催を契機とした様々な行動変容に繋げていく必要もあります。

そのためには、所管局である脱炭素・GREEN×EXPO推進局だけではなく、開催理念や「花・緑」や「環境」などのテーマに関連する関係局と18区が一体となって取り組む必要があります。

##### 【基礎データ】

- 博覧会開催の市民認知度  
市民の直近の現状値：約46% (「横浜市中期計画2022-2025」政策指標国際園芸博覧会開催の市民認知度)
- 区民の認知度：約86% (令和5年度瀬谷区区民意識調査)

#### ◇地域ニーズ等の収集手段

- 1 日常の窓口対応等
- 2 市民からの提案等
- 3 地区担当制
- 4 地域懇談会等
- 5 区民アンケート
- 6 区民要望
- 7 関係団体からの要望
- 8 その他 ( )

#### ◇区民からの具体的な要望

- 博覧会の認知度向上のため地元瀬谷区にとどまらず市内・市外で幅広く取組を行うことが重要
- 地域一体となって盛り上げるためには、区役所だけでなく各種団体の協力も不可欠である
- 博覧会に向けて機運醸成の取組を実施したいが、博覧会の内容が分からないので情報発信をしてほしい

#### ◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。

令和6年度 瀬谷区運営方針の「目標達成に向けた施策」において「賑わいと魅力の創出・GREEN×EXPO 2027に向けた機運醸成」として位置づけています。

◇提案内容・概算額等

1 博覧会開催に向けた区局横断したプロジェクトチームの設置及び推進【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】  
 博覧会の来場促進に繋がる取組と開催を契機とした行動変容に繋げるための取組を推進するため、所管局である脱炭素・GREEN×EXPO推進局をはじめ、「花・緑」を所管するみどり環境局など、開催理念やテーマに関連する関係局と18区が連携して進めるためのプロジェクトチームを設置する。

また、博覧会開催に向けて、子どもから大人、障がい者など全ての方々が安心して参加できる博覧会であることを伝え、開催を楽しみに待っていただける取組や行動変容を促すためには、学齢期からの働きかけが効果的なことから、小中学生を対象とした取組を検討する必要があります。そのため、関係局には、健康福祉局やこども青少年局、教育委員会事務局なども含めたプロジェクトチームにする必要があります。

《具体的内容（例）》

- ・区局で実施する取組が市として一体感かつ効果的な取組となるよう議論及び意思決定
- ・博覧会開催までに区局が実施する取組に関する広報計画の作成及び調整
- ・小中学生や各種団体などが主体となった機運醸成促進の取組検討及び実施
- ・行動変容に繋げるための取組検討及び実施
- ・区局協会が実施する取組の情報共有及び意見交換

2 区で実施する機運醸成の取組【脱炭素・GREEN×EXPO推進局】

各区において区の状況に合わせた取組を実施するための、各区事業への予算措置の拡大（取組例）

- ・「花・緑・農・食」、SDGs、GX等、開催テーマに沿ったイベントの実施
- ・区内花壇などの整備
- ・他区と連携した取組（相鉄線・JR横浜線沿いの区との連携等）

瀬谷区■■■■千円（全区一律でなく、各区の状況に応じて予算措置）

（参考）R6予算措置（■■■■千円）：■■■■千円（瀬谷区、旭区、緑区）■■■■千円（他15区）

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課

脱炭素・GREEN×EXPO推進局GREEN×EXPO推進課

◆局回答内容

脱炭素・GREEN×EXPO推進局		GREEN×EXPO推進課	
担当者名	長門、西野	TEL	671-4627

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容
	あらゆる世代の皆様への期待感や高揚感を醸成し、開催への機運をさらに高められるよう区役所課長級以下の会議体と緊密に連携するほか、関係局とも情報を共有し、市役所の様々な施策と連動させるなど全庁一丸となって取組を加速させます。また、18区が各々の特性や地域に合った広報プロモーションを柔軟に実施できるよう予算対応します。こうした取組を通じて、来場・参加促進や開催を契機とした行動変容に繋がります。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

## 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調書

所管 局名	都市整備局
----------	-------

瀬谷区		区政推進課	
担当者名	村上	TEL	367-5631
共通区			

継続年数	7年以上
------	------

提案種別	
予算関連	

番号	項目
3	二ツ橋北部地区の街づくりの事業推進

## ◇地域の課題、基礎データ等

・二ツ橋北部地区については、昭和33年に172haを土地区画整理事業として都市計画決定されましたが、昭和40年代からスプロールによる急速な市街化が進行したため、全体の事業実施は非常に困難な状況となっています。

・二ツ橋北部地区の一部には、老朽化した木造住宅が密集して立ち並ぶエリアや、道路が狭隘で緊急車両の通行が困難な箇所があり、防災面等検討すべき課題が残っていることから、早期の改善が必要とされています。

・市は、平成16年度に実態調査を実施し、二ツ橋北部地区をAからFまでの6地区に分け、各地区の特性に応じたまちづくりについて検討・調整を進めてきました。

・地区内の都市計画道路三ツ境下草柳線については瀬谷駅北地区及び三ツ境駅周辺で一部整備済となっていますが、C地区（相沢一・二丁目、二ツ橋町部分）は未整備区間となっています。現在、C地区が未整備であることから、この区間を通過しようとする車両は現道の県道瀬谷柏尾で相鉄踏切を横断するルート等を通行することとなり、周辺道路を含めて慢性的な渋滞が生じています。

・C地区内の三ツ境下草柳線を整備することにより、瀬谷駅と三ツ境駅を踏切を横断することなく結ぶことが可能となることから、早期整備が必要とされています。

・二ツ橋北部地区の第2期以降地区についてはこれまでブロック別懇談会等を進めてきましたが、今後も長い期間がかかる可能性があることから、事業実施までの間に地区内での土地所有者の変更等が進むことが想定されるため、継続的な地域への説明や情報提供が必要です。

## 【基礎データ】

- ◆ 二ツ橋北部地区土地区画整理事業 約171.6ha 昭和33年3月13日都市計画決定
- ◆ 瀬谷駅北地区土地区画整理事業 約8.9ha 平成12年3月26日換地処分
- ◆ 3・4・14三ツ境下草柳線、3・5・6瀬谷地内線 平成26年12月5日都市計画変更
- ◆ 二ツ橋北部三ツ境下草柳線等沿道地区第1期地区事業計画 決定 平成27年8月25日

## ◇地域ニーズ等の収集手段

- 1 日常の窓口対応等     2 市民からの提案等     3 地区担当制     4 地域懇談会等
- 5 区民アンケート     6 区民要望     7 関係団体からの要望
- 8 その他（令和5年度区民意識調査で「道路・歩道の整備状況」が2位）

## ◇区民からの具体的な要望

地区内の地権者から、次の要望があります。

・C地区内で施行中の、二ツ橋北部三ツ境下草柳線沿道地区土地区画整理事業の早期完了

## ◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。

・「都市計画マスタープラン瀬谷区プラン」では、三ツ境下草柳線を相鉄線北側の駅周辺へのアクセスを高める道路、瀬谷地内線を区北部の循環ルートを形成する道路として位置づけています。また、三ツ境下草柳線周辺については、都市計画道路の整備と背後の住宅地の環境に配慮した沿道のまちづくりを進めることとしています。

・二ツ橋北部地区の事業手法や段階的整備等について、平成16年度から19年度にかけて都市整備局と検討調査を行いました。

・二ツ橋北部地区のうちC地区については、平成22年度にC地区の地権者に対する土地利用意向調査、23年度に沿道まちづくり説明会、24年から地権者の意向を把握するためのブロック別懇談会を区局連携で実施しました。

## ◇提案内容・概算額等

- 二ツ橋北部三ツ境下草柳線沿道地区土地区画整理事業の第2期以降地区の継続的な地域への説明や情報提供及び早期事業化に向けた検討
- 172haのうち、長期事業未着手地区の取扱いの検討

## ◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

## ◇所管局

所管局課 都市整備局二ツ橋北部土地区画整理事務所、市街地整備推進課

◆局回答内容

都市整備局		二ツ橋北部土地区画整理事務所 市街地整備推進課	
担当者名	川田・壬生（二ツ橋事務所） 岡田・鈴木（市街地整備推進課）	TEL	363-3110（二ツ橋事務所） 671-3513（市街地整備推進課）

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容
	第1期地区の事業推進に係る事業費（換地設計費、補償費、工事費等）のほか、第2期以降地区については、早期の事業計画決定に向け、説明会やヒアリングで頂いた意見などを反映した事業計画案の作成費等について対応します。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調査書

所管局名	道路局脱炭素・GREEN×EXPO推進局
------	----------------------

瀬谷区		区政推進課	
担当者名	村上	TEL	367-5631
共通区			

継続年数	7年以上
------	------

提案種別	予算関連
------	------

番号	項目
4	慢性的な渋滞の緩和・解消に向けた区内道路整備の促進

**◇地域の課題、基礎データ等**  
 瀬谷区内には、南北に貫く環状3号線や東西に貫く横浜厚木線など、合わせて10路線の都市計画道路が計画されています。しかし、区内の都市計画道路整備率は45.1%で18区中16番目となっており、令和5年度区民意識調査で「道路歩道の整備状況」が生活環境の満足度において不満度2位となるなど、道路ネットワークの整備が課題となっています。特に環状3号線や横浜厚木線は、一部で先行取得により用地を確保しており、優先整備路線としての位置づけがありますが、いまだ都市計画事業として事業化されていないため、事業の進捗が見込めない状況となっています。区内には狭小な歩道により歩行者等の安全が確保されていない箇所（南台交差点）や、右左折車線が整備されていないことから慢性的に交通渋滞が生じている箇所（二ツ橋交差点）があり、また都市計画道路等の主要道路は、災害発災時の第1次、2次緊急輸送路に指定されていることなど、防災の観点からも迅速な対応が必要です。さらに、旧上瀬谷通信施設跡地のまちづくりが進められており、GREEN×EXPO 2027の開催やテーマパークの開業等を控え、交通量の増加が見込まれることから、それに対応する旧上瀬谷通信施設跡地周辺道路の整備も早急に進める必要があります。周辺道路の整備として「八王子街道の拡幅」「瀬谷地内線の整備」「環状4号線と八王子街道の交差点の立体化」が進められていますが、依然として道路混雑や住宅地への車両流入の懸念が示されており、それ以外の道路も含め、区民生活への支障が生じないために必要な整備を進める必要があります。

**◇地域ニーズ等の収集手段**

1 日常の窓口対応等     2 市民からの提案等     3 地区担当制     4 地域懇談会等  
 5 区民アンケート     6 区民要望     7 関係団体からの要望  
 8 その他（令和5年度区民意識調査で「道路・歩道の整備状況の改善」が2位）

**◇区民からの具体的な要望**  
 旧上瀬谷通信施設の跡地利用に伴う事業説明会や返還対策協議会等でも、周辺道路の混雑や歩行者等の安全確保について多くの懸念が示されています。令和元年度に返還対策協議会から提出された旧上瀬谷通信施設に関する土地利用についての要望書においても、開発に伴う発生交通量に対する交通対策が要望されています。

**◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。**

【瀬谷区運営方針】 「安全・安心のまちづくり」

**◇提案内容・概算額等**

- 1 横浜厚木線、環状3号線をはじめとした区内都市計画道路の早期事業化
- 2 旧上瀬谷通信施設跡地のまちづくりに対応する周辺道路の整備推進

**◇参考：区執行体制上の課題**  
 現行の体制で対応  
**◇所管局**  
 所管局課 道路局企画課、事業推進課、脱炭素・GREEN×EXPO推進局上瀬谷整備推進課、GREEN×EXPO推進課

## ◆局回答内容

道路局		企画課、事業推進課	
担当者名	森、泉(企画課) 江副、小川(事業推進課)	TEL	671-2777(企画課) 671-3533(事業推進課)

対応の有無	一部対応する
対応する場合	◇対応の内容
	未着手の都市計画道路については、整備財源となる国費が十分に確保できない状態が続いているなど課題があるため、事業化の目途は立っておりません。 なお、環状3号線の阿久和地区から二ツ橋地区までは、事業を効率よく進めるため、先行取得路線としています。(事業推進課、企画課)
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

脱炭素・GREEN×EXPO 推進局		上瀬谷整備推進課	
担当者名	岩峪・阪本・嶋津(上推)	TEL	900-0702(上推)

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容
	日常的な渋滞の解消や、GREEN×EXPO 2027開催時の円滑な通行を確保するため、周辺道路では、八王子街道の拡幅整備、瀬谷地内線の整備、環状4号線目黒交番前交差点の立体化整備を進めるとともに、混雑が予想される交差点においても交通対策を実施します。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調書

所管局名	脱炭素・GREEN×EXPO推進局
------	-------------------

瀬谷区		区政推進課, 瀬谷土木事務所	
担当者名	村上、矢野	TEL	367-5631, 364-1105
共通区	2区(旭区、緑区)		

継続年数	2年
------	----

提案種別	予算関連
------	------

番号	項目
5	GREEN×EXPO 2027開催時等における、駅利用者・道路利用者の日常の移動の利便性確保

**◇地域の課題、基礎データ等**

区内の都市計画道路整備率は45.1%で18区中16番目となっており、道路ネットワークの整備が課題となっています。

また、一般道においても道路の整備は遅れており、主要道路である県道瀬谷柏尾等では道路改良事業により一部区間において車道拡幅や歩道設置を行っていますが、未だ歩道が未整備で歩行者等の安全確保が不十分な箇所や右左折車線が整備されず日常的に交通渋滞が発生している箇所が多くあります。

その上、GREEN×EXPO 2027の会期中の約6か月にわたり一日当たり平時で約5～7万人/日、多い日には10.5万人/日の来場が見込まれ、徒歩や自転車等を除いた大半の来場者がバスや自家用車で来場すると想定されています。

そのため、開催期間中は、多くの事業所や物流施設がある会場の北側や、区民の多くが生活する会場の南側の双方で交通量が増加します。八王子街道の拡幅、瀬谷地内線の整備等が進められていますが、それでも区民等からGREEN×EXPO 2027の開催に伴う道路渋滞への懸念が様々な場面で示されています。

また、市内では三ツ境駅、瀬谷駅、十日市場駅から会場へのシャトルバス輸送が予定されており、開催中は駅利用者が増加することが見込まれる中で、駅利用者をはじめとした各駅周辺の歩行者の円滑な移動の確保も必要です。

以上より、今後策定される予定となっているGREEN×EXPO 2027の輸送実施計画については、開催中も周辺住民等の通勤・通学をはじめとする日常の移動の利便性が確保されるように関係機関等と調整し、そこで示された輸送計画が着実に実行される必要があります。

さらには、開催に向けて多くの工事をはじめとした準備が進められますが、それらが周辺道路の渋滞などの周辺住民等の日常生活への支障を生じさせないように進めていく必要があります。

**◇地域ニーズ等の収集手段**

1 日常の窓口対応等       2 市民からの提案等       3 地区担当制       4 地域懇談会等  
 5 区民アンケート       6 区民要望       7 関係団体からの要望  
 8 その他 ( )

**◇区民からの具体的な要望**

旧上瀬谷通信施設の跡地利用に伴う事業説明会や返還対策協議会等でも、周辺道路の混雑対策について多くの懸念が示されています。

**◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。**

【瀬谷区運営方針】 「安全・安心のまちづくり」「賑わいと魅力の創出・「GREEN×EXPO 2027」に向けた機運醸成」

**◇提案内容・概算額等**

- 1 駅や道路を利用する周辺住民等の日常移動の利便性が開催期間中も確保される輸送計画の実現
- 2 上記についての、会場周辺の住民や事業者への早期の事前周知
- 3 周辺住民等の日常生活に支障を生じさせない開催準備

**◇参考：区執行体制上の課題**

現行の体制で対応

所管局	脱炭素・GREEN×EXPO推進局GREEN×EXPO推進課、上瀬谷整備推進課
-----	---

## ◆局回答内容

脱炭素・GREEN×EXPO推進局		①GREEN×EXPO推進課 ②上瀬谷整備推進課	
担当者名	①田中 ②嶋津、山室	TEL	①671-4627 ②900-0703

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容
	住民や来街者が安全・快適に移動できるよう、周辺住民等の日常生活に十分配慮したうえで、公共空間の整備を進めます。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調書

所管局名	脱炭素・GREEN×EXPO推進局
------	-------------------

瀬谷区		区政推進課, 瀬谷土木事務所	
担当者名	村上、矢野	TEL	367-5631, 364-1105
共通区			

継続年数	2年
------	----

提案種別	予算関連
------	------

番号	項目
6	GREEN×EXPO 2027開催に向けた、来場者へのおもてなし空間創出

◇地域の課題、基礎データ等

GREEN×EXPO 2027では、開催期間中の有料来場者数を1,000万人以上と想定しています。シャトルバス等で会場まで来場者を輸送する計画となっていますが、会場から最も近い瀬谷駅からはシャトルバスに乗らずに来場することも想定されます。

そのため、来場者を受け入れるにあたり、駅周辺から会場に向かう約2kmに及ぶルートについては、区民の利便性を保ちつつ、来場者がシャトルバス以外の交通手段（徒歩、軽車両等）を選択することも想定し、誰もが快適かつ安全に通行できる空間とする必要があります。

また、瀬谷駅北口駅前広場は、国内外からの来場者を迎え入れるおもてなし空間の創出が必要です。GREEN×EXPO 2027のレガシーという視点も踏まえて、閉会後の利用も見据えてグリーンインフラの活用や水道や電気の整備等により、おもてなし空間を創出することで、開催後もGREEN×EXPO 2027の記憶に触れることや瀬谷駅周辺の今後の賑わい創出等に繋げることができます。

◇地域ニーズ等の収集手段

- 1 日常の窓口対応等
- 2 市民からの提案等
- 3 地区担当制
- 4 地域懇談会等
- 5 区民アンケート
- 6 区民要望
- 7 関係団体からの要望
- 8 その他（令和5年度区民意識調査で「道路・歩道の整備状況の改善」が2位）

◇区民からの具体的な要望

瀬谷区上瀬谷通信施設返還対策協議会から令和4年8月に提出された「新たな桜の名所づくりについて（要望）」において、子どもから高齢者までの幅広い世代、障がいのある人も安全安心に通行でき、楽しみ、くつろぐことができるような環境整備が求められています。

◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。

【瀬谷区運営方針】 「賑わいと魅力の創出・GREEN×EXPO 2027」に向けた機運醸成

◇提案内容・概算額等

- GREEN×EXPO 2027開催後を見据えた、グリーンインフラの活用や水道や電気の整備等による瀬谷駅北口駅前広場のおもてなし空間の整備
- 瀬谷駅から会場までの誰もが快適かつ安全に通行できる空間の整備

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課	脱炭素・GREEN×EXPO推進局 GREEN×EXPO推進課
------	---------------------------------

## ◆局回答内容

脱炭素・GREEN×EXPO推進局		GREEN×EXPO推進課	
担当者名	三川	TEL	671-4627

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容 瀬谷駅周辺や市道環状4号線において、住民や来街者が安全・快適に移動できる環境整備などを進めます。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調査

所管局名	健康福祉局
------	-------

瀬谷区		福祉保健課	
担当者名	藤森	TEL	367-5702
共通区	全区		

継続年数	新規
------	----

提案種別	予算・制度関連
------	---------

番号	項目
7	「横浜市民生委員・児童委員 協力員・バトンタッチサポーター制度(仮称)」の創設

**◇地域の課題、基礎データ等**

民生委員・児童委員（以下「委員」）は、地域の最も身近な福祉の相談相手として、支援を要する人の早期発見と区役所等への「つなぎ役」を務めるほか、訪問活動や地域における交流の場づくり等、中期計画に掲げる「地域の支え合いの推進」において重要な役割を担っています。

一方で、質的・量的負担増（福祉課題の複合化・複雑化/ひとり暮らし高齢者世帯・生活困窮世帯の増）、活動の制約となる社会情勢（対面接触を忌避する傾向/住民のプライバシー意識の高まり）、担い手の固定化及び新たな候補となる層の減少（定年延長/共働き世帯の増）等の様々な要因から、充足率の低下傾向が顕著になっています。

（一斉改選時の充足率：96.2%(H22)→95.0%(H25)→94.3%(H28)→92.4%(R元)→91.2%(R4)）。

また、委員の委嘱候補者の推薦を地域で担っていただいている自治会町内会長等からは「無報酬のボランティアでありながら業務の質量両面で負担が大きいイメージが住民の間で非常に強く、候補者が見つからない」との声が寄せられています。

次期一斉改選（令和7年12月）に向け、委員の活動支援・負担軽減により委員が活動しやすい環境を整備し、新たな担い手確保に繋がる行政の取組が求められています。

- ◇地域ニーズ等の収集手段**
- 1 日常の窓口対応等
  - 2 市民からの提案等
  - 3 地区担当制
  - 4 地域懇談会等
  - 5 区民アンケート
  - 6 区民要望
  - 7 関係団体からの要望
  - 8 その他（「自治会町内会に対する依頼の見直しに向けたアンケート」（令和4年度市民局・健康福祉局実施））

**◇区民からの具体的な要望**

○委員からの要望

- ・「相談件数や、見守りを必要とする世帯が多い」「行政や関係機関からの依頼事項が多い」「会議や研修が多い」「知識の習得や情報の整理が追いつかない」等、委員活動の量的負荷の高まりが委員のストレスになっている
- ・欠員となっている地区のフォローの方法について検討してほしい。欠員地区をフォローしている委員の負担が大きい。
- ・新任委員の心理的不安感の軽減のため、丁寧に趣旨・目的、具体的な活動（活動記録の記入の仕方、見守り対象者にどのように関わるか、前任者からの十分な引き継ぎなど）の説明が重要。

○自治会町内会長からの要望

候補者推薦にあたって市に期待する役割として、回答者の53%が「民生委員の活動や欠員地区をサポートする仕組み」という選択肢を選択しています（※複数回答）

**◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。**

- ・委員の活動支援・負担軽減に向けた課題整理・取組の検討のため、18区と局所管課の連携による協議を令和5年度から継続しています。
- ・先行して協力員制度、バトンタッチ制度を導入している2区（保土ヶ谷区及び中区）の実績を踏まえ、両区を含んだ7区と局所管課による分科会が中心となり、制度の素案検討を進めています。
- ・委員の活動内容について地域の理解を深めるための広報発信を行っています。
- ・瀬谷区運営方針 施策2「健やかな成長・誰もが健康で自分らしい生活」及び施策3「地域のつながり・支え合い」

◇提案内容・概算額等

横浜市民生委員・児童委員「協力員・バトンタッチサポーター制度（仮称）」を設置し委員の活動をサポートする体制づくりにより、委員が活動しやすい環境を整備し、新たな担い手確保に繋がります。

（「協力員・バトンタッチサポーター（仮称）」の役割）

- ・対象世帯数が多い委員の活動補佐
- ・欠員地区をカバーしている委員の活動補佐
- ・前任者による新任委員に対する引継ぎ及び活動補佐 等、地域の実情に応じて柔軟に運用でき、多様な課題に対応可能となる形で制度設計

（根拠規定）

- ・市要綱を新規策定

（活動費）

- ・実費弁償を目的として活動費（月額 ■■■円）を支給

（概算額（18区計））※市制度として制度創設

■■■千円

活動費：■■■千円※先行2区の実績を基に各区の定数等を根拠に算定

諸経費：（通年）■■■千円 [保険料, 印刷製本費, 通信運搬費等]/(初年度初期導入費用) ■■■千円 [印刷製本費, 消耗品費等]

※新たな委嘱手続等の事務負担については局への事務集約等措置を検討

（その他）

・制度の継続性を考慮し、財源として厚生労働省事業「地域の実情や課題に応じた民生委員の担い手確保対策」等補助金の活用についても局所管課にて検討

- ・スケールメリットを考慮した局所管課による事務集約化等を考慮

- ・関係者からの意見徴収等を行いながら、局と各区連携の上制度設計

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課	健康福祉局地域支援課
------	------------

◆局回答内容

健康福祉局		地域支援課	
担当者名	村山、下山	TEL	671-4046

対応の有無	対応する
対応する場合	◇対応の内容
	民生委員・児童委員の負担軽減・活動支援策として必要な経費を予算計上します。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調査

所管局名	こども青少年局
------	---------

瀬谷区		こども家庭支援課	
担当者名	白井	TEL	367-5760
共通区	11区（鶴見区、神奈川区、西区、中区、南区、港北区、緑区、青葉区、戸塚区、栄区、泉区）		

継続年数	3年
------	----

提案種別	予算関連
------	------

番号	項目
----	----

8	寄り添い型生活支援事業における支援メニューの充実
---	--------------------------

**◇地域の課題、基礎データ等**  
 当区では貧困や障害などの複数の課題を抱えている家庭や、保護者の養育力が弱い家庭が多いため、支援が必要な子どもたちが多くいます。そのような地域課題を受けて、寄り添い型生活支援事業の前身となる事業を平成21年度から他区に先駆けてモデル実施しました。その後、平成24年度から全市的に事業の必要性が認められたことから、瀬谷区での実施内容をベースとして、こども青少年局の事業として実施されてきました。  
 その中で当区では地域課題の解決に向け、区独自の事業として区づくり推進費を活用し「生活体験事業（平成25年度から）」を実施し、日頃体験できない貴重な経験を積むことで、生活リズムの改善や生活体験を通じた利用者の成長を支援するとともに、区配予算の範囲内で、週5日の平日開所に加えて「土曜日開所（令和4年度から）」を合わせて実施し、利用者の通いやすい環境を整えることで、支援が必要な家庭への生活及び学習支援に努めています。  
 以上の支援メニューを既存事業と別途提供することで、利用者の生活力が一層向上し、心の成長や安定に繋がっている状況を踏まえ、局予算による全市での展開を提案します。

- ◇地域ニーズ等の収集手段**
- |                                     |                                     |   |                                   |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1 日常の窓口対応等 | <input type="checkbox"/> 2 市民からの提案等 | <input checked="" type="checkbox"/> 3 地区担当制     | <input type="checkbox"/> 4 地域懇談会等 |
| <input type="checkbox"/> 5 区民アンケート  | <input type="checkbox"/> 6 区民要望     | <input checked="" type="checkbox"/> 7 関係団体からの要望 |                                   |
| <input type="checkbox"/> 8 その他（ ）   |                                     |   |                                   |

- ◇区民からの具体的な要望**
- ・生活リズムを整える為の更なる取組を進めたい。（運営事業者から）
  - ・平日以外に親が不在の困窮世帯に対する支援体制の確保が必要。（運営事業者から）

**◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。**

瀬谷区運営方針「子ども・青少年の育成」施策として、「青少年の心豊かな成長の支援」を位置付けています。また、下記2事業について区の独自事業として実施しています。

- 1 生活体験事業（平成25年度から区づくり推進費自主企画事業で対応）  
 生活リズムの改善や様々な生活体験を通じた利用者の成長を目的として、夏休み期間中、連続した日程で、長時間、集中的に生活体験や外出企画・保健師からの指導など、放課後の運営時間だけでは体験できない活動を実施しています。効果として、長時間の集団生活を通じて自宅では習得しづらい生活リズムを体得することができるとともに、各種体験を通じてルールやマナーなどの生活の基礎知識を学ぶことができ、利用児童・生徒の成長が図られています。  
 【R5実績】※R1以前は原則宿泊で実施、R2からR4は新型コロナ流行により日帰りで実施  
 <竹村の丘> 1泊2日×2回 <KURUMI> 日帰り×1回  
 参加人数：17人（小学生10人／中学生7人） 参加人数：6人（小学生4人／中学生2人）  
 【具体例】  
 ・昼夜逆転していた児童が数日間集中的に規則正しい生活リズムで過ごすことで、生活リズムの改善が見られた。  
 ・事前に集団行動のルールを考え実践することで、公の場でのマナーを体得することができた。  
 ・感染症対策の確認や、食事マナーを学んだ。  
 ・外部講師（警察署）を招いて交通安全について学んだ。

- 2 土曜開所事業（令和4年度から区配予算の範囲内で対応）  
 瀬谷区では、平日の開所だけでは、部活動等の事情や、休日に親が不在などの理由により生活が不安定となっているなど、生活困窮世帯の児童のニーズに対応するため、切れ目のない継続した支援を実施するため、土曜日における事業所の開所を行っています。  
 効果として、平日の支援では時間的な制約から切り詰めざるを得ない個別の課題に対する支援が丁寧にできたり、平日の参加が困難な児童への支援につながっています。  
 【R5実績】  
 <竹村の丘>  
 開所回数7回 参加人数（延べ）23人  
 【具体例】  
 ・午前中からゆとりをもって、調理や食事、買い物といった個別の課題にそって丁寧な支援を継続できている。  
 ・普段、休日に孤食に陥っている利用者が、楽しく会話しながら食事を摂るなど、社会性の取得に役立っている。  
 ・部活動等で平日に支援が受けられない生徒が参加しやすい土曜日の開所体制を確保することで、切れ目のない支援の継続に役立っている。

◇提案内容・概算額等

【提案内容】

1 生活体験事業

- 対象：寄り添い型生活支援事業を利用している小・中学生
- 期間：夏休み等長期休業期間を利用した長時間（宿泊・日帰りで1から4日程度）
- 目的：生活リズムの改善や、様々な体験を通し社会的ルールを学び成長すること
- 事業内容：生活リズムを整え健康管理について学ぶ事業・公の場でのルールやマナーなど社会生活のスキルを学ぶ  
事業・活動の目標設定や振り返りなど、社会的自立について学ぶ事業

（概算額）委託費 ■■■千円（1事業所あたり）【区委託実績による】

2 土曜開所事業

- 対象：寄り添い型生活支援事業を利用している小・中学生
- 目的：土曜日に親が仕事等で家庭を不在にし、居場所がない困窮世帯の児童に、休日の適切な生活習慣等を身につける。
- 事業内容：平日5日の支援に加え、土曜日に支援事業所を開所し、生活リズムの改善や生活体験を通じた利用者の成長や平日以外に親が不在となる支援が必要な家庭に対する生活支援・学習支援を行う事業

（概算額）委託費 ■■■千円（1事業所あたり）〔土曜開所1日あたり■■千円×12回〕  
※R6年度より区予算を計上

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課

こども青少年局 青少年育成課

◆局回答内容

こども青少年局		青少年育成課	
担当者名	石丸、涌井	TEL	671-2324

対応の有無	一部対応する
対応する場合	◇対応の内容
	生活体験について、取組内容及び費用対効果の検証を進め、令和8年度からの実施に向けた調整を進めることとします。 土曜開所について、効果検証を引き続き実施します。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題

### 令和7年度予算編成に向けた区提案反映制度調査書

所管局名	国際局
------	-----

瀬谷区		地域振興課	
担当者名	松崎、本野	TEL	367-5693
共通区	15区（鶴見区、神奈川区、西区、中区、南区、保土ヶ谷区、旭区、磯子区、金沢区、港北区、緑区、青葉区、都筑区、栄区、泉区）		

継続年数	2年
------	----

提案種別	
予算関連	

番号	項目
----	----

9	国際交流ラウンジ未設置区への支援充実による多文化共生推進
---	------------------------------

#### ◇地域の課題、基礎データ等

本市の外国籍人口が増加傾向にあり、令和6年5月末時点で、12万人を超えました。瀬谷区においても、5年前と比較して、約30%（R1→R6 増加率18区中6位）増加しています。昨年度実施した外国人意識調査の結果から、今後も瀬谷区や日本国内に住み続けたい意向が非常に高いことが明らかとなりました。

住み続けたい意向が強い中で、①日本語学習教室の需要が高く、日本語を学びたい意向が強い、②区役所において通訳、生活情報を提供してほしいという意見が多く上がっています。

ラウンジ設置区においては、ラウンジの機能の中で、日本語学習教室や生活情報の相談・提供が行われています。瀬谷区では、ラウンジがないため、①については、区民団体主体の日本語教室のみで対応、②については、現状、外国人向けの公的な相談先がありません。

ニーズの高い①②について、必要な施策を講じることで、日本語理解が進み、生活情報の充実が図られ、住みやすさの向上につながります。市としてラウンジの在り方を検討している中ではありますが、ラウンジが無い中でも、生活する上で必要な機能を区民の方に届けるために、未設置区に対するサポートを充実させていくことが必要です。

#### 【令和5年度瀬谷区外国人意識調査 結果】

- (1) 日本に住み続けたいか 1：瀬谷区に住み続けたい76.2% 2：日本には住み続けたい10.4%
- (2) 利用したい行政サービス 1：日本語教室40.3% 2：区役所での通訳、生活情報38.5%  
3：国際交流ラウンジ31.6%
- (3) 今後、日本語を学びたいか 1：積極的に学びたい31.2% 2：機会があれば学びたい48.1%
- (4) 日本語を学びたい場所 1：無料で学べる教室や学校45.5% 2：自宅や勤務先から近い教室35.9%
- (5) 地域に住む人にしてもらいたいこと 1：差別や偏見をなくしてほしい42.4%  
2：簡単な日本語を使ってほしい24.2%

#### ◇地域ニーズ等の収集手段

- 1 日常の窓口対応等
- 2 市民からの提案等
- 3 地区担当制
- 4 地域懇談会等
- 5 区民アンケート
- 6 区民要望
- 7 関係団体からの要望
- 8 その他（多文化共生情報交換会での意見）

#### ◇区民からの具体的な要望

区内の当事者や支援者（日本語ボランティア団体等）、学校などからヒアリング・意見交換する中で、下記のようなご意見や要望をいただいています。

- ・区民団体が実施している日本語教室で、生徒数が増えている団体がある。また、スタッフの不足により、現在、順番待ちがあるため、人や場所などのリソースの提供・紹介をして欲しい。
- ・子どもたちの為の、学校以外での居場所、学習支援の場を作って欲しい。
- ・包括的に相談を受ける・対応する窓口、困りごとや人（当事者、行政、支援団体、地域）をつなぐ場、居場所が欲しい。
- ・行政の支援情報が伝わっていない。伝わっていないために区の窓口で相談せず（=姿が見えず）、当事者ニーズや課題が潜在化している。まずは区役所内で連携した積極的な情報発信をして欲しい。

#### ◇これまでの区としての対応 ※区運営方針に位置付けられているものはその旨記載してください。

瀬谷区運営方針：施策3「地域のつながり・支えあい」及び多文化共生の推進に基づき、様々な取り組みを行ってきました。

- 1 YOKE「地域日本語教育推進モデル地域事業」（R3～R5）を活用した日本語ボランティア養成講座（R3、R5）や支援者等の意見交換会（多文化共生情報交換会）の設置（R4）により、区内の支援者の育成・連携体制構築
- 2 区内外国人意識調査（R5）により、当事者のニーズ把握や取組検討
- 3 広報よこはま瀬谷区版特集（12月号）、多文化共生リーフレットの発行（R5）、やさしい日本語講座（R5）による区民全体に向けた多文化理解の促進

◇提案内容・概算額等

1 新規ボランティア育成支援の充実

「日本語学習教室の需要が高く、日本語を学びたい意向が強い」のニーズに対して、瀬谷区内の日本語教室でスタッフが不足しているという実情があります。人員不足に対応するため、日本語ボランティアの新規発掘につながる講座を開催することが必要です。また、ボランティア育成講座の最後には、既存団体との交流会を実施し、活動を始めるハードルを下げる必要があります。ボランティア育成講座受講者に既存団体へ加入して活動していただくことでスタッフ不足の解消が期待でき、日本語理解支援の充実を通じて住みやすさの向上に繋がります。これらの内容について、局事業として、ラウンジ未設置区への支援を実施していくべきです。また、提案内容2のコーディネーターとも連携して活動することで、更なる効果が期待できます。

【概算額】

ラウンジ未設置区1区あたり■千円（（1）入門講座（5回構成）、（2）フォローアップ講座（5回構成）の計2講座実施予定。1講座あたり■千円（講師謝金■千円 チラシ作成費■千円 消耗品費■千円）

2 コーディネーターの配置

「区役所において通訳、生活情報を提供してほしい」のニーズに対して、外国の方が区役所において生活情報の提供や包括的な相談ができる場所、地域の方が外国の方との関わり方について相談ができる場所として、国際局による、アウトリーチ人材（区とともに地域に入って関係性を作り、伴奏支援ができる人材）の配置（派遣）を求めます。

【コーディネーターの役割】

区とともに、下記の取組を実施（※コーディネーターの席は区地域振興課に設置。週3日を想定）

- 区との連携強化
  - ・情報を共有し、区内の状況調査を行い、地域に合った取組を検討
- 担い手づくり
  - ・既存ボランティアの活動サポート、講座等による新たなボランティアの発掘・育成、区内施設等との連携
- 地域との関係性づくり
  - ・連合、自治会町内会、地域の活動者や支援者、区内施設等との顔の見える関係づくり
- 地域に入り込んだ居場所、学習の場づくりのトライアル
  - ・在住外国人の多い地区、ニーズの多い地区に入り、相談対応や居場所等をつくる伴奏支援の実施

【概算額】

・国際局 1区あたり■千円（コーディネーター配置に係る経費■千円 旅費■千円 備品費■千円）

今後、上瀬谷の地で「GREEN×EXPO 2027」が行われることもあり、さらに多くの方が外国から来ることが予想されます。上記1、2の取組等により、区内における多文化共生を推進することで、「GREEN×EXPO 2027」をきっかけに瀬谷区に立ち寄ってくれる外国の方へのサポートの充実にもつながるといふ相乗効果が見込めます。

◇参考：区執行体制上の課題

現行の体制で対応

◇所管局

所管局課	国際局政策総務課
------	----------

◆局回答内容

国際局		政策総務課	
担当者名	風間	TEL	671-3826

対応の有無	一部対応する
対応する場合	◇対応の内容
	在住外国人が抱える相談内容やニーズの多様化に伴い、設置から30年以上経つラウンジについてその目的、機能や役割について、区局が連携して再検討しています。要望の中のラウンジ未設置区における地域日本語教育への支援は、局としても重要と考えており、本市の地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業の一環として実施します。
対応しない場合	◇課題に対する局の考え方
	◇対応する場合の課題